



照葉樹林内に普通にある。



最下羽片の下側第一小羽片が大きい。



胞子囊群は縁と中肋の間につく。

区別のポイント

4回羽状深裂。最下羽片の下側第一小羽片が長い。羽片は上に向かって次第に短くなり、頂羽片というべきまとまりはない。

形態 常緑性のシダ植物。

分布 本州（関東地方以西の海岸沿い）・四国・九州・沖縄

名前の由来

葉 **〈全体〉**葉身は4回羽状深裂だが小さい葉では2～3回のこともある。葉質は硬い革質。中軸・側軸・葉脈（裏面）に細かい鱗片が付く。

〈葉柄〉長い葉柄があり線状披針形で褐色の鱗片が付く。

〈羽片〉羽片は上に向かって次第に短くなる。羽片・小羽片には短い柄がある。裂片の鋸歯の先端は硬い刺となる。

備考

出典 3